

もいのにぎわい通信

2020年2月22日 定例活動報告

日時：2020年2月22日（土）9：30～15：00

場所：小山町 観音地

天候：晴のち曇 気温10～17℃ 湿度71% 風向 南 風速6.0m

参加者：15人：子ども2人、大人13人（内土地改良区4人）

■活動

9:30 土地改良区作業開始

10:00 集合

10:20 作業開始

11:00 休憩

11:30 昼食

12:30 作業開始

15:00 後片づけ・解散

■活動報告

今日のメインテーマは溜まった間伐材などの残材の焼却でした。事前に消防署の許可をとり軽トラックに500Lの給水タンクを用意し消火水としました。朝まで雨が降り開催が危ぶまれたほどでしたから地面が湿っていて火事の心配については少し気が楽でした。しかし逆に、乾きが不十分なので煙いこと、煙いこと。私など、花粉症で目・鼻が痛いのに、さらにこの煙が加わって涙が止まらない状況でした。おまけに春一番と記録されるほどの強風も吹いて大変な作業でしたが、なんとか無事終えることができました。

この焚火による焼却作業でいつも思うのは、子供が興味深々で燃やすのを手伝っていて、彼らがとても楽しんでいるし、良い教育になっているのだなということです。何が起きているのかを見極めるようにじっと火を見ているじっと火を見ている子、周りから枯草や枝を集めて燃料となるものを忙しく足し続ける子と色々です。そこには好奇心だったり、少しでも大人を真似て手伝おうという貢献への心だったりが見えます。昔、私が子供の頃は風呂を沸かす火の番だったり、学校の薪ストーブの当番だったり子供が家事に貢献する場面があったのです。今や風呂だってガス湯沸かし器のスイッチをひねるだけとなり子供の手伝いの場面がありません。ここでは焚火や煮炊きの窯に燃える火を観察できることに加え、子供が親を手伝える場面という良い教育機会になっていると思います。

更に、今回は小高さんが使っていた火炎放射器の小型版みたいなバーナーの活躍にはびっくりしました。これを使うたびになかなか燃えない湿った枝や幹がバーナーで簡単に燃え上がっていきます。一方ではウインドブレーカーやダウン、ジャンパーの類の化学繊維類に火の粉が接触するとポツポツと穴が空いてしまいます。バーナーに化学繊維、刈払機はガソリンと軽油の混合油で動いている、やはり石油文明の上で生きているんだなあと実感します。

本日のお昼には星野さん・和田さんによるけんちん汁をご馳走になりました。とても美味しかったです。新しい参加者は藤井さんが連れてきた長男の奏君で、(カナデと読むということです) まだけん

ちん汁は食べられず離乳食でしたが、終始ご機嫌で足元の悪いこの土地を踏みしめてよちよちと歩いていたのが印象的でした。

午後からは古くなって使えなくなった支柱の整理、除草作業及び苗木の手入れを行いました。

最後に焚火の消火を確認し残った消化水は池の水に補充しました。

今夜もまた雨が降るようで、作業には暖かで気持ちよく過ごせる一日でした。前後の雨のおかげで火事の危険をそれほど心配しなくてもよかったのも幸いでした。池にはカエルのタマゴ、ツバキ、ウメ、サクラが咲き乱れ春到来も間近のようです。

雑草除去は参加者が少なくいまいちでしたが成果ありの一日でした。

(記録： 金井章男)

.....
お知らせホームページもご覧下さい→ <http://www.g-cycle.org/>

次回の定例会は、3月28日(土)(雨天の場合3月29日(日))除草作業、苗木の枝の剪定を行う予定です。



集合写真



バーナーで火をつける。



2 m近くの炎





前日の雨で火の勢いは弱くなり安全にたき火が出来た。



休憩中の歓談



整理した苗木の支柱



ニホンアカガエルの卵塊



ヤブツバキ



南高梅



カワヅサクラ



新参加者の奏君とお父さん